

信州大学サポーターズクラブメルマガ第 103 号 2022 年 02 月 28 日

信州大学サポーターズクラブ

メ | ー | ル | マ | ガ | ジ | ン | 第 103 号 |

信州大学サポーターズクラブ事務局

2022 年 02 月 28 日

..... 毎月月末に配信しています

【 I N D E X 】

シンダイ百科

信大のコレ紹介します

サポーターズクラブからのお知らせ

□■シンダイ百科

『広津の杜（ひろつのもり）』

をご紹介します！

広津の杜は、2018 年度から 2020 年度まで、北安曇郡池田町の地域課題を解決することを目的として活動していた『池田つむぐプロジェクト』の「広津観光グループ」の活動を引き継いだ団体で、2021 年度から活動をスタートしました。現在は信大生（大学院生を含めて）5 人、他大学の学生 8 人の計 13 人で活動しています。お話は農学部学生の絹谷さんに伺いました。

○詳細は次ページ以降をご覧ください。

□■信大のコレ紹介します

繊維学部講堂 と 資料館

をご紹介します！

繊維学部の講堂と資料館は、官立上田蚕糸専門学校の講堂と貯蔵庫（ちょけんこ）として建てられました

。講堂は洋風の木造2階建てで外壁は薄い桃色と濃い桃色でモダンな雰囲気です。資料館（旧貯蔵庫）は外周の装飾や開口部、基礎に色違いの煉瓦を使用していて、建てられた場所も当時のままです。今号では、繊維学部を代表する歴史的建造物である講堂と資料館の成り立ちなどをご紹介します。

○詳細は次ページ以降をご覧ください。

□■サポーターズクラブからのお知らせ

会員情報登録変更のお願い と

サポーターズクラブ会員募集のお知らせ

会員情報登録変更のお願い

お引越し・転勤などにより、登録時の会員情報に変更が生じている会員様はいらっしゃいませんか？ ご登録情報に変更のある方がいらっしゃいましたら、恐れ入りますが登録内容の変更をお願いいたします。最新の情報をお届けするためにも、今一度ご確認をお願いいたします。

サポーターズクラブ会員募集のお知らせ

信州大学サポーターズクラブでは、多くの方に「信大サポーター」として会員になっていただき、大学と会員との連携強化を目指しています。会員の皆様の周りにおられる在学生や卒業生、保護者、教職員といった信大関係者の方々は是非、サポーターズクラブをご紹介します。

また、サポーターズクラブは、直接信大にゆかりがなくとも、信大に関わるすべての方々が参加できる団体です。卒業生じゃないから・・・とのお声をいただくこともありますが、信大の情報を知りたい、信大生を応援したい等、きっかけは何でも大丈夫。信大にご興味を持っていただければ「信大サポーター」の仲間入りです！

ご登録いただいた皆様には、メルマガやSNSで信州大学の情報をご案内するのはもちろん、登録いただいたサークルや団体の活動をPRしたり、メンバー募集等の告知もお手伝いをいたします。

<http://koyukai.shinshu-u.ac.jp/>

メルマガのバックナンバーはこちらから

<http://koyukai.shinshu-u.ac.jp/mail/>

『信州大学サポーターズクラブメールマガジン』

編集・発行/信州大学サポーターズクラブ事務局

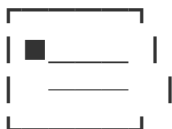
長野県松本市旭 3-1-1

【 Mail 】 koyukai@shinshu-u.ac.jp

【HP】 <http://koyukai.shinshu-u.ac.jp/>

【 F B 】 <https://www.facebook.com/shindai.koyukai>

2022.02.28



信州大学サポーターズクラブ【シンダイ百科】第103号

—今回は北安曇郡池田町で活動する「広津の杜」をご紹介します。

Q1)「広津の杜」とはどんな団体ですか？設立された目的や目指すものを教えてください。

A)広津の杜は、2018年度から2020年度まで、池田町の地域課題を解決することを目的として活動していた『池田つむぐプロジェクト』の「広津観光グループ」の活動を引き継いだ団体です。現在の活動としては、メンバーが週末や長期休暇に、池田町広津地域の正ノ田（しょうのた）集落にある古民家を拠点に、中山間地域で暮らすことの良さと厳しさを実感し、地域行事から歴史や文化の大切さを学ぶことを目的としています。また、地域の方とのつながりを継続させ、池田町広津地域に持続的に学生が関わることを目指しています。メンバーは信州大学の学部生4人と大学院生1人、他大学の学部生8人の計13人で活動しています。メンバーは改装班、週末班、広報班のいずれかの班に所属し、毎週オンラインで班ごとにミーティングを行い、活動の内容や方針等を決めています。

改装班：お借りしている古民家の掃除・管理・改装に関わる活動を大家さんに相談しながら実施

週末班：メンバーが週末に集まり、広津地域を知り楽しむイベントの企画（年に4回ほど）と運営を担当する

広報班：広津の杜の活動や広津地域の魅力をSNSで発信、又チラシを作成・配布する

Q2)活動内容を教えてください。

A)【現在定期的に実施している活動】

1) 毎週末に池田町広津地域に通い、中山間地域での暮らしを体験する

広津の杜では、古民家をお借りしてそこを拠点にしているのですが、管理に関しては毎週メンバーが通い庭の雑草の除去や部屋の清掃などをこまめに行うことで古民家を維持しています。改装に関しては、改装班が中心となり作業工程や必要な材料などを調べ、古民家の大家さんに相談を行い、広津地域検室（にれむろ）集落の住民の方や、大家さんにお力を貸していただき実施しています。その際道具はお借りしていることが多いですが、自分たちで調達するものもあります。



【2021年11月 古民家の床下に断熱材を入れる改装作業の様子】

実際に中山間地域である広津地域での生活を通して、メンバーが感じた良い点や厳しい点が色々あります。良い点は「自然の四季や人のあたたかさを感じることができること」です。自然が豊かであるため年間を通して生活することで、古民家の窓から景色を見ることができたり、少し散歩するだけでも季節を感じられますし、地域の方と一緒に季節の食材（筍やタラの芽、柿や茸など）を採ることで、自然とともに暮らし四季を楽しむことを学びました。広津の杜のメンバーは広津地域の方々にとってはよそ者ですが、広津地域の方々は私たちを受け入れ地域行事にも参加させてくださり、集落の一員として地域の輪に入れていただいています。そういった交流を大切にすることで、助け合いながら暮らす

喜びを知ることができました。厳しい点は「古民家の維持と積雪の多さにより年間を通して活動することの難しさ」です。お借りしている古民家は築 200 年近くだそうで、茅葺きトタン屋根で囲炉裏が残っているなど歴史を感じられる一方で、トイレやふろ場は屋外で冬は寒さが厳しく、階段や部屋の床が老朽化しているなど、改装すべき場所が多々あります。また広津地域は積雪が多いので学生が毎週末通う時に山道に雪が残っていることもあり、天気の良い日は特に通うことが難しくなります。

必要・重要だと思ったことは、古民家をお借りし、生活しているからこそ見えてきた課題があり、現在それらの課題に関してできることから取り組んでいく、ということです。学生が広津地域で活動することにより、公民館や道路の清掃活動では普段よりも広範囲で掃除を行うことができ、祭事では 40 年ぶりに獅子舞の復活を遂げることができました。学生も一緒になって、地域の方と活動することで、普段あまり手の届かないことをするきっかけとなりました。人手不足で諦めてしまっていたことができるようになるということは重要な事であり、これからも今あるつながりを継続させることが必要だと考えています。



【2021 年 4 月 地域の方と道路掃除】

2) 広津地域の地域行事（祭事、公民館の清掃、道路の草刈り、地域の交流会等）への参加

高齢により作業が難しくなった方の代わりに、生活に支障が出るほど生い茂った竹を切る作業や、林業従事者の方が所有する杉の丸太の樹皮を剥ぐお手伝いを行いました。他にも 2020 年、2021 年は農園を営まれている方が、七色大カエデ（池田町の観光名所）のそばの屋台で野菜を販売されるお手伝いを行いました。地域の交流会では、地域のお年寄りから子どもまでが集まる 3 世代交流会に参加させていただきました。昼食には、広津地域の郷土料理でもある灰焼きおやきと広津地域の養豚場の豚を使用した豚汁を作りました。以前、秋に行ったイベントの際に灰焼きおやきを参加者の方と作りました。このイベントでは、広津地域の灰焼きおやきが得意な方々に作り方を教えてもらい、一緒に作らせてもらうことで、メンバー内でも作れるようになりました。食事の後には、ビンゴゲームを行い広津地域の方とのお話を楽しみました。



【2021 年 12 月 交流会で灰焼きおやきを一緒に作っている様子】

【過去実施した活動実績】

1) 2020 年（当時は池田つむぐプロジェクト広津観光グループ）に広津地域の楡室集落で担い手不足などにより 40 年間途絶えていた獅子舞復活に携わりました。池田つむぐプロジェクト広津観光グループの時から、楡室集落の祭事には参加させていただいており、2019 年以前は、秋の例大祭は獅子舞を舞わずに行うなど、住んでいる方々が無理なく継続できる形に簡略化して行っていましたが、古民家の大家さんを中心に獅子舞を復活させたいというお話を伺っていました。そこで、メンバーの一人が獅子舞について学んでいたこともあり、復活のために本格的に活動を始めたことがきっかけです。活動の中で特に難しいと感じたことは「楽器を演奏すること」と「練習時間の確保」です。一度途絶えてしまっていたこともあり、お囃子（おはやし）の再現には音声データのみが頼りで、メンバーが音声データから楽譜を作成し練習を重ねましたが、当時の篠笛の吹き方や太鼓の叩き方が分からず、試行錯誤する日々でした。そんな中で、完全に昔のお囃子を復活させることができなくても、私たちなりのお囃子をしようという気持ちで現在も練習をしています。また、獅子舞の練習には学生のほかに楡室集落の大人の方や中高生が参加していました。それぞれの時間を合わせて練習することが難しく、獅子舞の本番まで全体での練習時間をなかなか確保することができませんでした。現在も毎月一回の練習を行っていますが、全員で練習することは難しいです。それでも、獅子舞の復活を通じて、練習期間を含め楡室集落の方と関わる機会がとても増えました。獅子舞復活本番は、楡室集落の方はもちろん、以前楡室集落に住んでいた方も楡室神社に足を運んでくださり、復活をととても喜んでくださいました。池田町町長や新聞記者の方もお越しくださり、楡室神社の獅子舞復活に注目していただきました。このように私たちの活動が、楡室集落の方々に喜んでいただけたということがやりがいであると思っています。

また、楡室集落の獅子舞は、松本市の三才山（みさやま）神楽保存会会長の方のご指導をいただきながら活動しています。三才山神楽保存会には広津の杜のメンバーのひとりが大学のゼミナールでお世話になっていたことがきっかけで、楡室集落の獅子舞復活に携わっていただくことになりました。2021 年に長野市の獅子舞フェスティバルへ、三才山神楽保存会が参加し、広津の杜はそのお手伝いとして、参加させていただきました。また、いずれ楡室神社として獅子舞フェスティバルに参加出来たら良いと思っています。



【2020 年 10 月 （左）お囃子の練習風景 （右）楡室の獅子舞とお囃子の様子】

2) 2021 年：社会福祉協議会、池田町公民館が主催の、「ふるさとチャレンジ塾」での『広津の竹で工作しよう！』の講師を務めました。竹を使って工作しようと思ったのは、広津地域では竹林が放置されることにより、竹害が深刻となっています。竹を伐採するだけでなく、竹を利用して何かできないかと考え、竹工作をはじめました。ふるさとチャレンジ塾では、広津地域の魅力だけでなく課題についても知ってもらい、竹工作を体験してもらうことで竹や竹害に興味を持ってもらおうと考えました。参加した子どもたちは、中心市街地に住んでいる子が多く、市街地から少し離れた広津地域にはあまり足を運んだことがなく、市街地には竹が生えていないこともあり、子どもたちにとっては竹が珍しかったようで、竹工作で余った竹を大量に持ち帰っている子もいました。私たちの広津地域の紹介から、広津地域の自然の豊かさを知ると共に、竹害という課題があるということも伝わったのではないかと思います。また、竹工作を行うことで、自然の中にあるもので遊ぶ楽しさにも気づいて貰えたのではないかと思います。またお声掛けをいただいたら参加を検討したいと思っています。



【2021 年 7 月 （左）広津の竹について説明する様子 （右）竹を工作する様子】

Q3)これまでの活動を通して広津地域とどんなふうにつながって、それをどう継続していくか、又そこに学生がどう関わるのが目指す形であると考えていますか？

A) 現在の広津地域の方とのつながりを無理なく継続させることを目指しています。人手不足など学生が必要となる場面では学生がお手伝いし、学生がお借りしている古民家などで活動していく中で課題が出たときには、広津地域の方々に力を貸していただく。学生は自身のやりたいことや興味のあることを広津地域で実践させていただくとともに、お世話になっている分のお返しとして広津地域の方々が困っているときには手助けをさせていただくというような関係で繋がっていきたいと思っています。このように繋がっていくために、広津の杜としては、メンバーが所属する大学の学生に、広津地域と広津の杜について宣伝し興味をもってもらい、毎年新入生を迎え活動を続けていきたいと考えています。広津地域には様々な課題があります。その中で学生は、責任の持てる範囲で活動を行い、広津地域に住んでいる方々が少しでも暮らしやすくなり、広津地域で暮らすことに誇りを持ってもらえたら良いと思っています。広津地域で暮らしている方々にとっては、身近すぎて見えていない広津地域の魅力があると思います。そんな魅力を、広津地域の方々に学生目線で伝えていけたらと考えています。

Q4)最後に、メッセージやコメントがあればお願いします。

A)私たちの活動は、広津の杜の Instagram、Twitter、ブログ等でご覧いただくことができます。興味のある方はぜひご覧ください。

【Gmail】 hirotsu.kanko@gmail.com
【Twitter】 https://twitter.com/hirotsu_mori
【Instagram】 https://www.instagram.com/hirotsu_mori/?hl=ja
【Facebook】 <https://m.facebook.com/hirotsuforest>
【blog】 <http://hirotsu80.blog.fc2.com/>
【note】 https://note.com/hirotsu_mori/n/n29f2c781d650

皆さまの活動は広津地域の方々にとっても大切な思い出と絆になっているだろうな、と感じました。また今回のインタビューから、お隣やご近所、地域の人とのコミュニケーションも積み重ねてゆくことが大切なのだ、と改めて考えるよいきっかけになりました。この度はお忙しいところインタビューにご協力いただきありがとうございました。

信州大学サポーターズクラブ【信大のコレ紹介します】第103号

—今回は繊維学部（上田キャンパス）にある講堂と資料館をご紹介します。

信州大学繊維学部講堂は信州大学繊維学部の前身である、官立上田蚕糸専門学校の講堂として建てられました。上田蚕糸専門学校は、当時日本が工業立国として台頭しようとした明治43年（1910年）に養蚕、製糸業で栄え蚕都（さんど）と呼ばれていた上田に蚕糸に関する日本初の高等教育機関として設立されました。その後、繊維技術全般にわたる高等教育機関に発展し、昭和24年（1949年）の学制改革により信州大学繊維学部が発足しました。この講堂は信州大学繊維学部を代表する建物として、現在でも学生の卒業式の会場などに使われています。



建物は洋風の木造2階建てで、建物延べ面積は562㎡あります。屋根はトタンの切妻造（きりづまづくり：屋根の形状の一つで屋根の最頂部の棟から地上に向かって二つの傾斜面が本を半開きにして伏せたような山形の形状をしたもの）で瓦棒鉄板葺（かわらぼうてっぱんぶき）、外壁は下見板張り（したみいたばり）です。外観は正面に切妻破風（きりづまはふ：破風とは切妻造などの屋根の妻側（棟の端）において合掌形に付けられた板、あるいはその板を組んだ部分のこと）を2段に重ね、三角の張り出し窓を付けた特徴ある構成をとっています。昭和に建てられた木造の建物が今も状態良く残っているということで文化財として登録しようという動きが起こり、平成10年（1998年）に登録有形文化財に登録されました。また平成19年度（2007年度）には、経済産業省の近代化産業遺産にも認定されました。

内部は大きな吹き抜けとなっており、天井は折上格天井（おりあげごうてんじょう：天井の中央部分を、その周りの部分より高く仕上げた形態を折り上げ天井といい、更に正方形の格子状に板を組んで仕上げたものを格天井という。寺院や書院造の建物で多く採用されており、空間に重厚感を与え格式を高める様式とされる）で、講堂内のシャンデリアは竣工当時の物です。



また、講堂の様々な所に蚕系にちなんだデザインが残されています。講堂ステージの演台には蛾、入口天井の換気口には蛾と繭のデザインが見られます。



繊維学部では例年、この講堂で卒業式が執り行われます。卒業生は講堂1階のホールに着席し、保護者の方は2階から観覧します。普段は講堂に入れないため、卒業式に初めてこの講堂に入ったという方も多く、重厚で典雅な雰囲気の中で執り行われる式は、参加者の方々から「非常に素敵な卒業式だ」とのお言葉を頂くこともあるそうです。

次に資料館をご紹介します。現在は資料館として利用されているこちらの建物は、元々は上田蚕系専門学校の貯繭庫（ちょけんこ）として建てられました。「貯繭庫とは何だろう？」と思われるかもしれません。貯繭庫とは「採集した繭を保管しておく倉庫（繭庫）」のことです。この貯繭庫は上田蚕系専門学校の設立時に建てられ、学生の実習用の繭庫として使われていました。建てられた当時から今もその場所は変わっていません。この資料館（旧貯繭庫）は、庇（ひさし）以外はほぼ手が加えられておらず、建設当時の様子を残しています。



平成22年（2010年）に信州大学繊維学部が100周年を迎えるにあたり、ここを資料館としてより充実・整備させようという話が持ち上がり整備されました。平成25年（2013年）にはこちらの資料館も講堂と同じく、登録有形文化財に登録されました。中は学生の実習用のため、入っても天井が高く圧迫感がない、倉庫としては贅沢な作りになっています。建材は煉瓦造りで、煉瓦は段ごとに煉瓦の長い方と短い方を交互に組んでおり、建物の周囲をめぐる装飾や開口部、基礎に色違いの煉瓦を用いています。開口部と基礎には石も使って、外観にアクセントがつけられています。

当時貯蔵庫では採集した繭を、滑車を使って2階へ上げて保存していました。繭は品質によって分別された状態で保存し、運び出す際には2階の天井の一角に開けられた四角の穴（現在は強化ガラスで蓋がされています）から混ぜて落とすことで、運ばれていく繭の品質が一定になるようにしていました。



展示品の中で一番目を引くのは、当時の生系の商標です。生系を輸出する際に、生系の上にラベル（生系商標）が貼られたのですが、いろいろな製糸会社の生系商標を集めたものが「生系商標彙帖（きいとしょうひょういじょう）」として展示されています。上田蚕糸専門学校時代の製糸科2回生が、全国の製糸会社から集めて学校に寄贈したものです。大正2年（1913年）の開校記念式典で展示されました。現在は資料館でその一部が展示されています。また、上田蚕糸専門学校で教材として使われていた錦織物（にしきおりもの）を中心に収めた織物見本帳（おりものみほんちょう）も展示されています。こちらは織物を貼りつけ書籍の形状にしたもので、繊維学部にも6冊残っているものの一部を展示しています。中の織物は、江戸末期から明治時代にかけて製織され、主に宮中・華族などに納められたものと推量されますが、詳しい由来は分かりません。日本の伝統的な紋様の織物が多く、織物を設計するための貴重な資料です。



また、かつて使われていた装束として、「団長の舞（団長踊り）」の時の「常田ヶ丘拍子」の衣裳が展示されています。学生が大学祭の時に上田駅前で踊りを披露したときに着たもののようです。これを着ていた人が行列の先頭に立ち、神輿などを中心とした練り物担当の学生がそれに続く、という昭和中期～後期頃のイベントがあったようです。学生さんが踊っている写真も展示されています。



また、上田蚕糸専門学校で使われた教材も多数展示されており、1階には蚕用ふ卵器があります。ふ卵器とは卵をふ化させるもので、ふ化の様子を説明していたようです。2階には蚕の模型や解剖図などがあります。現代の学生は映像などで、蚕が卵の中でどのように成長しているかを見ることができますが、当時は、このように模型を作って学生に説明していたのでしょう。



※講堂及び資料館は、現在、新型コロナウイルスの感染・蔓延防止の観点から常時施錠されております。また、歴史的資料の紫外線などによる経年劣化を防ぐため、現物は図書館で保管しているものもあります。これらの展示品は「信州大学繊維学部デジタルアーカイブ」でオンライン上でもご覧いただけます。

【信州大学繊維学部デジタルアーカイブ】

<http://fiber.shinshu-u.ac.jp/tex-da/>

今回初めて繊維学部の講堂と資料館を見学しました。どちらも当時の面影を色濃く残すものがたくさんあり、興味深く見学させていただきました。この地で養蚕や製糸が人々にいかに大きな影響を与えていたか、それらを更に発展させようと奮闘していた上田蚕糸専門学校の先生や学生達の情熱の一端を垣間見ることができた気がしました。

次号では、繊維学部の「疾走するファイバー展」及び「真綿・蚕糸館」についてご紹介しますので、どうぞ楽しみに。